

## 協議体は地域ケア会議その他の類似機関と兼ねることができるか

### 提言

地域ケア会議や地区社協などは、協議体とは目的や機能が異なるという認識を共有した上で、それぞれの役割機能を理解し、連携して事業を進めよう。

### 登壇者

【進行役】	土屋 幸己氏	(一社)コミュニティーネットハピネス代表理事
	齋藤 大輔氏	市原市第1層SC
	瀬賀 秀雄氏	村上市第2層神林地区協議体委員
	平田 清美氏	(社福)安城市社会福祉協議会地域福祉課
	河上 誠氏	泉南市第2層SC
	石井 義恭氏	厚生労働省老健局総務課/社会・援護局地域福祉課(併)地域共生社会推進室(併)課長補佐

#### ■ 寄せられた声から

- パネリストの報告から参考になる部分があり、地域へもちかえります。

### 議事要旨 土屋 幸己氏

進行役の土屋から、本分科会の趣旨説明の後、各登壇者からの発言をいただく。以下、その発言からのポイントをまとめる。

市原市第1層生活支援コーディネーター 齋藤大輔氏

市原市は人口27万人、第2層11カ所設置済。市からこの事業を受託し地域ごとに住民参加のワークショップを展開し体制整備を進めてきた。

活動を進めていく上でのポイントとしては、①事業の目的を共有するための規範的統合(理念や目的の共有)を第一に考えた→関係者400名を集めて基本的な勉強会を開催した、②社協の行動計画の中に生活支援体制整備を組み入れた→活動の根拠を明確にした、③介護予防を意識した通いの場や生活支援を作り出すことに留意した→既存の地域福祉活動との違いを意識、④既存の地区社協と協議体の関係を整理しながら再編した。

村上市第2層神林地区協議体委員 瀬賀秀雄氏

瀬賀氏は自治会長や街づくり協議会等で活動している住民代表として第2層神林地区協議体委員に就任。住民目線から事業に取り組んでいる。

活動を進めていく上でのポイントとしては、①自治会と協議体は一体的に取り組んでいる→自身も自治会長なので双方の連携に努めている、②街づくり協議会では中学生以上を対象にアンケート調査を実施した→若者の意識や課題も把握、③高齢者でも支える側になれるという自負→支え・支えられる意識の高揚、④茶の間(通いの場)の推進→課題は補助金をもらう際の書類の多さ。

安城市社会福祉協議会 平田清美氏

安城市は人口約19万人、高齢化率20.7パーセントの

市。すでに地区社協が設置されており協議体と同じようなメンバーが選出されていたので、機能を整理し新たに協議体を設置した。

活動を進めていく上でのポイントとしては、①すでに地域にある地区社協、福祉委員会、企業等が連携できる協議体を組織化する、②すでに設置されている地区社協からメンバーを選出し足りないメンバーを追加し協議体を再編した。課題としては地域包括支援センターと社協の役割の明確化。

泉南市第2層生活支援コーディネーター 河上誠氏

河上氏は、NPO法人泉南市認知症ケア研究会として、生活支援コーディネーター選出のプロポーザルに参加して、事業を受託する。第2層は社会福祉法人等が多く、連携を図りながら事業を推進している。

活動を進めていく上でのポイントとしては、①個別支援の地域ケア会議に出席し、そこで出てきた地域課題を第2層のSC・協議体等へつないでいる→地域ケア会議と協議体との連携、②個別支援から見えてくる課題は、フォーマルな課題と支え合いの課題→支え合いの課題は地域で解決→協議体の役割。

厚生労働省 石井義恭氏

支え合いのキーワードは、世のため・人のため・自分のため。自助・互助・共助をつなげて地域包括ケアシステム、すなわち地域ぐるみの支援体制を作ろうとまとめられた。

以上を踏まえ提言をまとめた。

### アンケートの結果 参加者概数:55名 回答者数:46名

